

中部
ひとまもり・まちまもり協議会
地域ビジョン

令和7年3月



目次

【第1部】 中部地区について	1
1 あいさつ	1
2 ひとまもり・まちまもり協議会とは.....	2
3 中部地区の概要.....	3
4 中部地区の人口.....	4
5 協議会の体制	5
6 今までの活動	5
【第2部】 地域ビジョン策定について	6
1 地域ビジョンについて	6
2 地域の現状について.....	6
3 中部ひとまもり・まちまもり協議会の今後の活動目標.....	8
4 中部ひとまもり・まちまもり協議会の地域ビジョン	10
【第3部】 課題解決ワークショップの開催について	11
1 課題解決ワークショップの開催	11
2 【第1回】 地域の課題について考える.....	12
3 【第2回】 地域で求められていることを考える	14
4 【第3回】 地域で実施するアイデアを考える	16
5 地域ビジョン策定ワークショップ参加者名簿	19

【第1部】 中部地区について

中部ひとまもり・まちまもり協議会が
地域の明るい未来の実現にむけて活動していくために
「地域ビジョン」を策定しました。

1 あいさつ

中部地区は、地区の中央に境川が流れ、別府湾を望む美しい公園や共同温泉が点在する生活利便性の高い地域です。

本協議会は平成30年11月に、境川地区、北地区、緑丘地区の23自治会と10の構成団体が連携し、共通の課題を解決することにより自治機能を維持していくことを目的として発足しました。人口減少が進む中、地域の活力を維持し、次世代へより良い環境を引き継ぎたいと考えています。

このたび、「中部ひとまもり・まちまもり協議会地域ビジョン」が完成いたしました。本冊子は、地域の皆さまとともに未来を考え、意見を交わしながら作成したものであり、今後の指針となる一冊です。

この地域ビジョンをもとに、地域の特色をいかした新たな取り組みにも挑戦していきたいと考えています。子どもたちが健やかに成長し、高齢者の方々が安心して暮らせる環境を整えながら、地域の皆さまとともに歩んでまいります。

今後とも協議会の活動にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後に、ご協力いただいたすべての皆さまに心より感謝申し上げます。

中部ひとまもり・まちまもり協議会
会長 幸 勝美

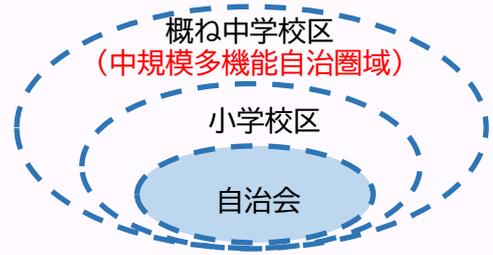
2 ひとまもり・まちまもり協議会とは

～地域がつながるまちづくり 市内7つの新たなコミュニティ～

【持続可能な地域コミュニティに向けて】

別府市では将来に向けて、従来の小学校区の自治の範囲を概ね中学校区の圏域に広げて自治運営の基盤を拡大することにより、様々な機能をもつ中規模多機能自治を推進しています。

現在、7つの圏域の地域運営組織として、多様な主体が連携する「ひとまもり・まちまもり協議会」が新たな地域コミュニティを形成し、地域の特性をいかながら課題解決に取り組んでいます。



別府市 HP より

【ひとまもり・まちまもり協議会とは】

ひとまもり・まちまもり協議会は、多様な人や団体が連携して、住民が力を合わせて主体的に地域づくりを行う新たな地域コミュニティです。地域住民が中心となって、地域の特性をいかながら連帯感を高め、将来を見据えた地域づくりを行っています。

自治会を含めた多様な主体や幅広い人材が連携・協力することにより、様々な課題に対して、ネットワークをいかした自主的・効果的な取組が期待できます。

別府市 HP より

■ ひとまもり・まちまもり協議会一覧

概ね中学校区の圏域で7つのひとまもり・まちまもり協議会が活動しています。



山の手



中部



南部



朝日大平山



北部



鶴見・南立石・東山

鶴見台

鶴見台

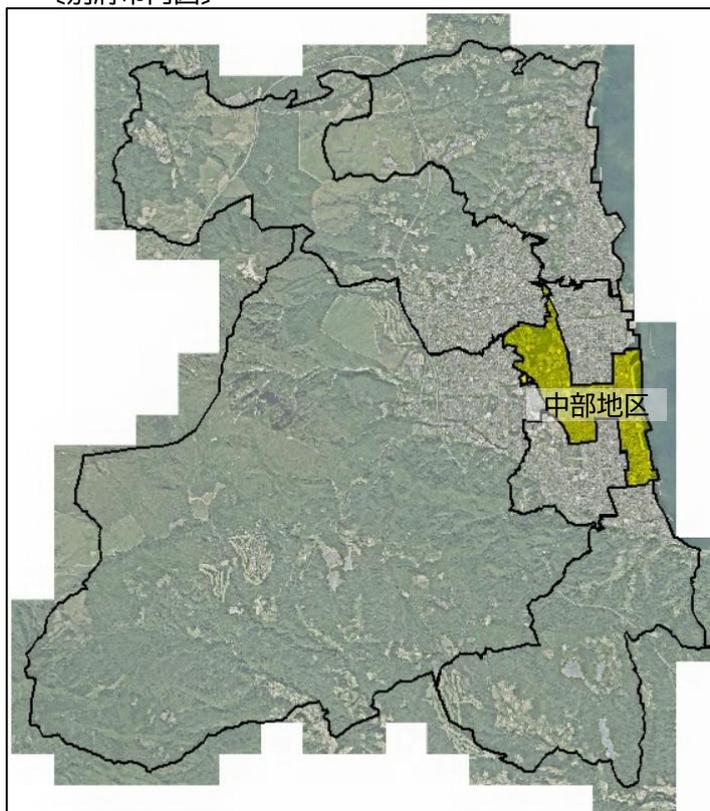
別府市 HP より

3 中部地区の概要

中部地区は、地区の中央に境川が流れ、別府湾岸沿いには餅ヶ浜海浜公園・的ヶ浜公園(スパビーチ)・北浜公園が整備されています。境川河川敷とスパビーチは別府の春の風物詩である「べっぴん鶴見岳一気登山」でも親しまれています。別府駅の東側に広がる中心市街地には、旅館街や飲食店等が立ち並び、西側の緩やかな傾斜地には閑静な住宅街が広がっています。別府八湯の一つである別府温泉を有し、数多くの市営温泉や共同温泉が点在しています。交通の面では、南北に延びる国道10号と県道645号(幸通り)に接し、生活の利便性も高い地域です。

地区の人口は約16,800人、世帯数は約9,700世帯、高齢化率は約31.7%であり、7圏域(協議会)で、人口は4番目に多く、高齢化率は2番目に低くなっています。(※人口・世帯数・高齢化率は令和6年7月末現在の数値)

〔別府市内図〕

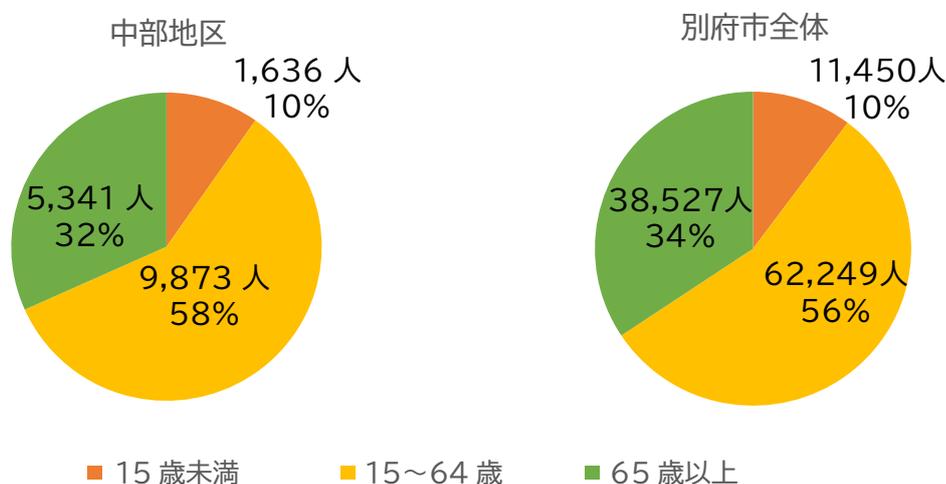


【中部ひとまもり・まちまもり協議会の基本情報】

設立	平成30年11月5日
構成団体	自治会(境川・北・緑丘23自治会)、社会福祉協議会、小学校、中学校、PTA、地域包括支援センター
該当地区	上野口町、天満町、石垣西一～三丁目、石垣東一～三丁目、元町、北浜一～三丁目、南的ヶ浜町、北的ヶ浜町、弓ヶ浜町、京町、若草町、新港町、餅ヶ浜町、実相寺、荘園北町、東荘園、緑丘町

4 中部地区の人口

■ 中部地区と別府市全体の人口構成(令和6年7月末現在)



中部地区は65歳以上の高齢人口割合が約32%となっており、別府市全体(約34%)と比較すると低いことがわかります。一方で、15歳未満の年少人口割合は同程度であり、その結果、15歳～64歳にあたる生産年齢人口割合が約58%と高くなっています。

中部地区は、高齢者人口割合が低く、生産年齢人口割合が高いため、労働力の中心となる世代の比率が高いことが特徴です。

■ 地区別の人口(令和6年7月末現在)

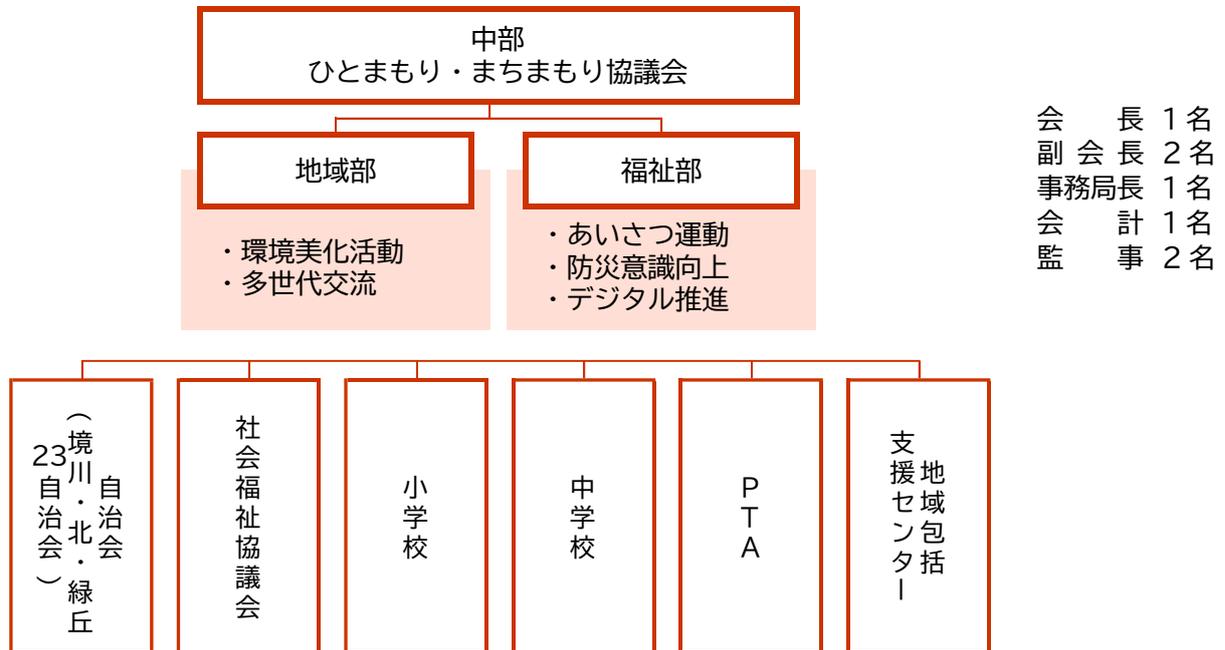


地区別の人口では、境川地区の人口が約7,100人と最も多く、北地区、緑丘地区は4,900人前後とほぼ同じ人口となっています。

人口構成では、65歳以上の割合は緑丘地区(約36%)が最も高く、一方で15歳未満の年少人口割合は、境川地区と緑丘地区がほぼ同じ割合で高い水準となっています。15歳～64歳の生産年齢人口の割合は、北地区が最も高く(約64%)、地区により人口構成に差があることが特徴と言えます。

5 協議会の体制

【組織図】



6 今までの活動

【地域部】

中学生と地域住民との懇談会・ワークショップ等の実施や環境美化活動を行っています。

- ・中部中学校ドリームスクール
- ・餅ヶ浜海岸等の清掃活動



【福祉部】

防災意識を高めるための活動、地域のコミュニケーション活性化、共生社会実現のための活動をしています。

- ・体験型防災食イベント、災害図上訓練
- ・あいさつ運動
- ・スマホ教室



【事務局】

部会での協議事項を共有し協議会内の連携を深め、活動の円滑な実施に努めています。

- ・人材育成講座
- ・掲示板の整備
- ・防犯カメラの設置
- ・広報チラシの作成



【第2部】 地域ビジョン策定について

1 地域ビジョンについて

地域ビジョンとは、ひとまもり・まちまもり協議会がこれからの地域をより良いものにしていくためにはどのように活動すればよいかを示す指針です。将来を見据えたまちづくり活動を行うための体制づくりのきっかけとなるものであり、住民と自治体等が対等なパートナーとして、ともに理想の地域を築くための道しるべです。

2 地域の現状について

地域ビジョン策定にあたり、住民の声を反映するためにワークショップを実施し、ひとまもり・まちまもり協議会の現状と課題、目指すべき姿について整理しました。

① 協議会の目的や意義を共有する

本協議会では、住みよいまちづくりを進めるために、子どもたちへのあいさつ運動やスマホ教室などさまざまな活動に取り組んできました。しかし、一部の方に負担が集中しやすい状況や、次世代の担い手の育成といった課題があります。地域住民がより気軽に活動に参加できるようにするためには、協議会の役割を明確にし、活動の目的や意義を共有することが大切です。

また、事務局機能を強化することで、円滑な運営を支える仕組みを整えることができます。広域の組織である協議会だからこそできる役割を見極め、協力組織同士をつなぐことで、地域全体の活動をさらに広げていきます。

② わかりやすい情報発信と情報共有をする

本協議会では、広報チラシの配布などを通じて取組や活動内容を住民に伝えていますが、より多くの方に情報を届けるためには、SNSの活用など伝達手段を広げることや、内容を分かりやすく工夫することが大切です。

また、協議会の実施するイベントだけでなく、活動そのものに関心を持ってもらうことも重要です。日常の取組などについても積極的に発信することで、協議会の取組をより身近に感じてもらえるようにしていきます。こうした情報発信を通じて、地域の活性化に関心のある方や、参加方法が分からなかった方を後押しするとともに、協議会内の情報共有を円滑にし、風通しのよい環境を整えることで、まちづくりへの意欲を地域全体で共有していきます。

③ 住民同士がつながりを大切にする地域にする

中部地区では、清掃活動などさまざまな活動を実施し、住民同士のつながりを深めてきました。しかし、マンションの住民が地域活動に参加しにくいことや、若者と高齢者の交流が少ないこと、新たな参加者が増えにくいことなどの課題があり、より多くの方にかかわってもらうための工夫が求められています。

地域内のつながりを強めるためには、地域の拠点を整備し、活動の中心となる場所を確保することも重要です。各学校との交流を活発にし、PTAと地域活動のつながりを強めることで、地域全体に一体感が生まれます。こうした取組を通じて、住民が地域に誇りを持ち、より充実した暮らしができるまちづくりを目指していきます。

さらに、災害時の迅速な対応のためにも、日頃から地域のつながりを強化しておくことが不可欠です。そのために、活動の目的を分かりやすく伝えることや、開催日時の工夫、参加者以外の意見を集めて反映させることなどを通じて、住民同士や世代間の交流を活発にしていきます。

3 中部ひとまもり・まちまもり協議会の今後の活動目標

地域の現状や課題の確認から整理したキーワードより、中部ひとまもり・まちまもり協議会が活動するうえで活動目標と活動方針を整理しました。

● 活動目標①

協議会の役割の明確化と関係団体との連携

求められていること

- ・ 組織体制の見直しを実施することで、組織の目的や目指すべき姿を明確化する
- ・ 地域に賑わいを創出する組織を目指す
- ・ アイデアを積極的に活用できる仕組みづくり
- ・ 若者が活動の中心になれる組織になる
- ・ 協議会全体で実施する活動をつくる

活動方針

協議会の役割を明確化し、関係団体との役割分担、連携をして協議会としてすべき活動をします。

● 活動目標②

効果的な情報発信で、住民の参加を促進

求められていること

- ・ チラシやSNSなどを活用した広報を実施する
- ・ 活動の目的や魅力が伝わる情報発信をし、新規参加者を増やす
- ・ 防災に関する情報を積極的に発信する
- ・ 企画側として参加したくなるような情報を届ける

活動方針

日常的に実施している活動に関して効果的に情報を発信し、取組内容を広め、住民が積極的に参加する協議会にします。

● 活動目標③

多世代交流と地域参加の拠点づくり

求められていること

- ・ 多世代が交流できる活動や、気軽に集まれる拠点をつくる
- ・ 地域住民の声(ニーズ)を聴く機会をつくる
- ・ 住民同士の情報交換の場がほしい
- ・ 運動施設や学校など既存の施設の有効活用
- ・ 放課後に子どもが集まれる場所をつくる
- ・ 地域にかかわりたい人たちが気軽に参加できる仕組みをつくる

活動方針

住民が気軽に集まることができ、協議会活動の中心となる拠点をつくることで、幅広い世代で活動できる地域にします。

4 中部ひとまもり・まちまもり協議会の地域ビジョン

設定した活動目標や活動指針から、中部ひとまもり・まちまもり協議会としての今後のまちづくりの指針となる「地域ビジョン」を策定しました。

■ 地域ビジョン

地域に根付いた協議会で
「持続可能な住みよいまち」へ

中部ひとまもり・まちまもり協議会の 目指す地域づくり

本協議会は、学校などと連携して、地域住民と子どもたちの交流を深める取組を中心に活動してきました。自治会をはじめとする地域の団体と住民をつなぐ役割を果たしながら、多世代交流の実現に向けて活動を続けています。

しかし、協議会の組織や役割がわかりにくいという声もあり、自治会の取組との住み分けや、協議会活動の目的をさらに明確にしていくことが求められています。そこで、本協議会では、住民が参加する取組のお知らせや報告に加え、日々の活動内容を積極的に発信することで、地域全体に協議会の意義を伝えていきます。また、新たに企画側として参加する人材を募集し、多くの住民が主体的に地域づくりにかかわるきっかけを提供していきます。

地域に協議会の存在や活動を根付かせることで、世代を超えて誰もが安心して暮らし、夢や目標に向かい、未来へ歩いていけるまちを築いていきます。

【第3部】 課題解決ワークショップの開催について

1 課題解決ワークショップの開催

地域ビジョン策定にあたり、住民の声を反映するために、「持続可能なまちづくり」をテーマとし、デザイン思考※を用いた「課題解決ワークショップ」を全3回にわたり実施しました。



【第1回】 地域の課題について考える

活発な意見交換の中で、地域に潜在する課題を洗い出し、重要度の高い課題について考えました。

【第2回】 地域で求められていることを考える

第1回で洗い出された課題をもとに、地域の中に潜在する「ニーズ」を探すとともに、それを解決する糸口となる「問い」を設定しました。

【第3回】 地域で実施するアイデアを考える

第2回で設定された「問い」を解決するための具体的なアイデアを考え、「絵(図)」という形でイメージを具体化しました。

ビジョンの検討、とりまとめ

ひとまもり・まちまもり協議会 地域ビジョン策定

※デザイン思考とは

問題を解決するための思考法の一つです。課題を洗い出した後に、重要な問題を特定することで真に解決が求められている本質的な問題はなにかを考えます。この問題に対し、どう解決していくかアイデアを出し合い、実行プランへと具体化します。意見を出し合い、重要なものに絞り込んでいく過程を繰り返すことで、普段可視化されていなかった潜在的な課題や対応が必要な事項を探り出すことができます。

2【第1回】地域の課題について考える

活発な意見交換の中で中部地区に潜在する課題を洗い出し、重要度の高い課題が何なのかを考えました。参加メンバーから挙げられた課題を紹介します。

(令和6年10月25日実施)

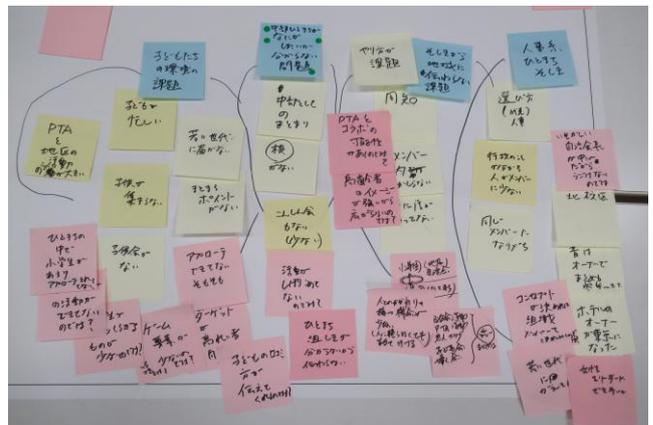
キーワード	子ども、保護者世代の参加
実際の意見	<ul style="list-style-type: none">・ 町内で子どもが集まる機会が少なくなった・ 地域の子どものイベントがもう少しあると良い・ 子ども神輿が昔はあったがなくなった・ 保護者の時間と地域の人を時間を合わせるのが難しい・ 保護者が活動に出てこれない
キーワード	行事、イベント
実際の意見	<ul style="list-style-type: none">・ 今している行事に楽しい行事を追加するなどすればよい方向になるのではないか・ 子どもから大人までかかわれる行事を増やしたい・ 神社や港を活用して協議会で集まる機会をつくってはどうか・ 今やっている清掃活動の後にイベントを肉付けしてはどうか
キーワード	認知度、情報発信
実際の意見	<ul style="list-style-type: none">・ 協議会のことを知らない住民が多い・ LINE、メッセージ、書面で連絡しており、ツールが不統一・ 広報のやり方が難しい・ 規模が大きく回覧板が回りきらない・ 自治会の活動を伝えづらい

キーワード	多世代交流
実際の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多世代交流が必要 ・ 高齢者と若者のつながりが少ない ・ 地域に新しく入ってきた人とのコミュニケーションがない ・ 横のつながりが頼りない、少ない ・ マンション住民との交流が難しい

キーワード	組織、活動
実際の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出てくる人が同じ人になる ・ 自治会との連携が難しい ・ ビジョンの一本化、取組の統一 ・ 顔が見える関係づくりを目指しているが難しい ・ 活動に重なりが多い ・ 地域全体で活動して各小学校と交流したい



課題からの気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰でも集える交流の場が必要 ・ 広報が弱いので協議会の活動が広がらない ・ 成功体験(事例)がなく、協議会の活動や魅力が知られていない ・ 協議会が何に取り組みたいのか、ビジョンがわからない
----------	--



3【第2回】地域で求められていることを考える

第1回で洗い出された課題をもとに、地域の中で「求められていること」を探すとともに、それを解決する糸口となる「問い」を設定しました。4つのグループでどんな「問い」にたどり着いたかを紹介します。

(令和6年11月15日実施)

■ 設定された「問い」①

課題解決のための問い

「どうすれば魅力ある交流の場をつくることができるだろうか？」

求められて
いること

- ・ 多くの人たちが集まる機会、顔を合わせる機会
- ・ 三世代交流
- ・ 協議会全体での活動

■ 設定された「問い」②

課題解決のための問い

「どうすれば子どもから高齢者まで行きたくなる、集える場をつくることができるか。

3地区それぞれの地域の個性をいかしながら活動をしていけるか？」

求められて
いること

- ・ 集える場所をつくる
- ・ SNSを活用する
- ・ スポーツを一緒にする機会
- ・ 地域の施設の活用(ジム、卓球場)

■ 設定された「問い」③

課題解決のための問い

「どうすれば地域で取り残される人が出ないような集まりの場をつくることができるだろうか？」

求められて
いること

- ・ みんなが気軽に集える場をつくる
- ・ 高齢者が利用しやすい拠点
- ・ 地域に賑わいを生んでほしい
- ・ 多世代交流の場として、みんなが集まれるイベント

■ 設定された「問い」④

課題解決のための問い

「どうすればひとまちの存在意義を知ってもらうことができるだろうか？」

求められて
いること

- ・ ニーズを把握するための声を聴く場
- ・ 気軽に立ち寄れる拠点
- ・ PTAなどと目的を共有する場
- ・ 若い人を取り込める組織

4【第3回】地域で実施するアイデアを考える

【第2回】のワークショップにて、中部地区の「本質的な問い」を4つ設定しました。

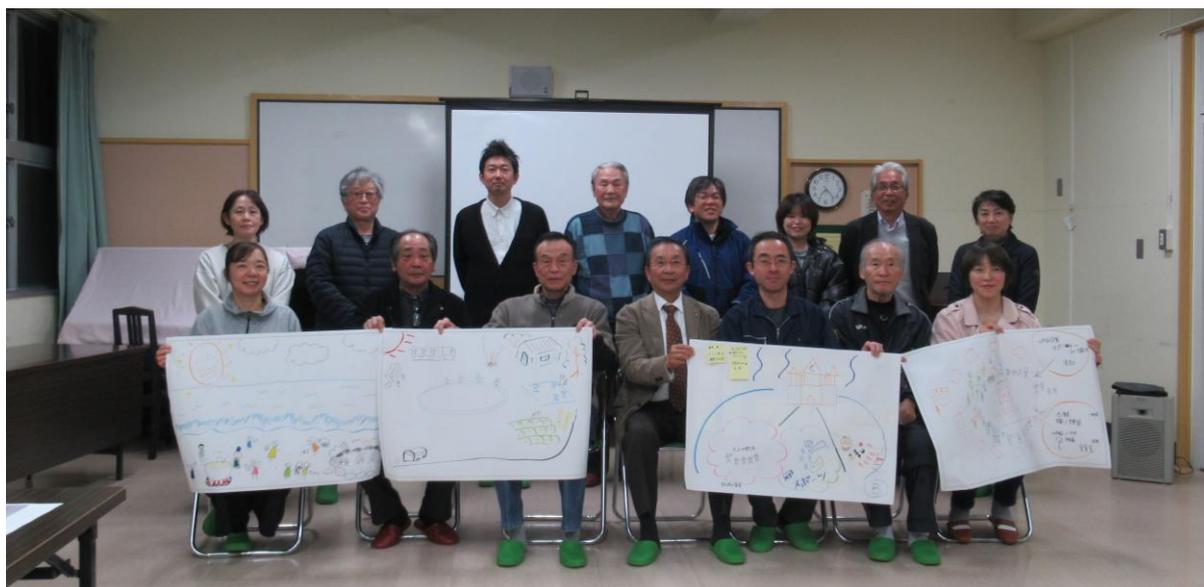
(令和6年12月11日実施)

課題解決のための問い

1. どうすれば魅力ある交流の場をつくることができるだろうか？
2. どうすれば子どもから高齢者まで行きたくなる、集える場をつくることができるか。
3地区それぞれの地域の個性をいかにしながら活動をしていけるか？
3. どうすれば地域で取り残される人が出ないような集まりの場をつくることができるだろうか？
4. どうすればひとまちの存在意義を知ってもらうことができるだろうか？

この問いに対して、ワークショップの参加メンバーで4つのグループに分かれて、実際にどう行動していくかアイデアを出し合いました。

次のページから、内容について紹介します。



アイデア A

【課題解決のための問い】

～清掃活動でウェルネス～ 日の出を見る会

どうすれば魅力ある交流の場をつくることができるだろうか？



【アイデアの視点】

交流の場として、みんなが集える取組について考えた。地域資源をいかし、交流を生むアイデア。

清掃活動

餅ヶ浜海岸の清掃活動を参考に、協議会で「日の出を見る会」を行う。日の出を見て清掃活動を行い、活動後はみんなで豚汁を食べて交流する。

清掃活動後は入浴してウェルネス

さらに、協力していただける近所のホテルなどで、清掃活動後にみんなで入浴。清掃活動で体を動かし汗を流す、そして最後に温泉に入り、こころも体もいきいきとするウェルネスな活動。

アイデア B

【課題解決のための問い】

～気軽に参加できる新しい運営形態～ 大人の部活動

どうすれば子どもから高齢者まで行きたくなる、集える場をつくることができるか。
3 地区それぞれの地域の個性をいかながら活動をしていけるか？



【アイデアの視点】

全員が集える核となるようなイベントを考える中で、各地域で分散して催しを企画して運営してはどうかと考えた。

各地域でバザーやスポーツ大会

各地域で分散し、バザーなどのいろいろな催しを運営する。そのほかにも、会長賞を設けたスポーツイベントを行うアイデア。

大人の部活動

今のメンバーだけでは広がりがないため、「大人の部活動」として、気軽に参加できる運営形態をつくる。現在、LINEグループをつくって、「中部ひとまち応援隊」としてスマホ教室への派遣等で活動しているが、同じような形で参画してくれる人を増やしていく。

アイデア C

～誰もが集まりやすい集会所～ 森のレストラン

【課題解決のための問い】

どうすれば地域で取り残される人が出ないような集まりの場をつくることができるだろうか？



【アイデアの視点】

子どもや保護者、地区の高齢者など、誰もが集まりやすい場とするには、どのようなものがあるとよいかを考えた。

森のレストラン

ログハウス風の集会所「森のレストラン」。保育所スペースを備え、子どもと高齢者が一緒に遊ぶことができる。見守る保護者も少しの間ホッとできる。森のレストランの周りには、菜園や花壇、運動会ができる運動場。焚火や焼き芋イベントもできる。

集まりやすい工夫

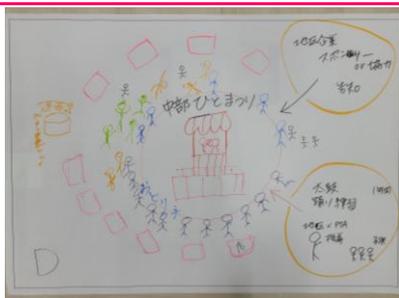
ここに集まりやすい工夫として、シルバーカーの自動運転を導入する。他にも、移動図書館が定期的に来ることで、人が集まる。あまりお金をかけずに、いろいろな要素を加えていくことができる場となる。

アイデア D

～地踊りの復活～ 中部ひとまつり

【課題解決のための問い】

どうすればひとまちの存在意義を知ってもらうことができるだろうか？



【アイデアの視点】

地区の認知度をあげ、どのような協議会にしていくかを考える中で、「地踊り」という昔からある踊りに注目し、子どもや保護者を巻き込む行事を考えた。

中部ひとまつり

なかなかできなくなった地踊りの復活とあわせて、「中部ひとまつり」として協議会で実施する。太鼓や踊りを教える活動をきっかけに人が集まり、定期的に行き、子どもや保護者、PTAなども巻き込みやすい。

中部地区の新しいコンテンツ

場所は海門寺公園などを活用する。昔は洗面器をもらっていた時もあることから、これらを参考に、新しい中部地区のコンテンツを広げることができ、中部地区を盛り上げていく。

5 地域ビジョン策定ワークショップ参加者名簿

役 職	氏 名	所 属 等
会 長	幸 勝 美	石垣東一丁目自治会長
副 会 長 (地 域 部)	長 井 正 樹	若草町自治会長
副 会 長 (福 祉 部)	宮 崎 眞 行	実相寺自治会長
会 計	石 原 雅 義	緑丘町自治会長
福 祉 部 長	管 野 陽 子	中部包括支援センター
福 祉 部 長	久 保 山 久 美 子	緑丘小学校PTA会長
福 祉 部 長	佐 藤 誠 二	荘園北町自治会長
事 務 局 長	大 塚 俊 夫	上野口町2区青壮年会
事 務 局 補 助	藤 内 美 穂	中部中学校PTA
地 域 部	佐 藤 勝 利	北浜二丁目自治会長
地 域 部	川 口 愛	中部中学校PTA会長
地 域 部	廣 石 昇	境川小学校PTA会長
福 祉 部	郷 司 義 明	石垣東三丁目自治会長
福 祉 部	佐 藤 健	境川小学校校長
福 祉 部	伊 藤 由 香	別府中央小学校PTA会長
理 事	阿 南 文 章	新港町・餅ヶ浜町自治会長
理 事	吉 田 悠 子	別府市社会福祉協議会事務局長
委 員	高 橋 博 美	石垣東二丁目自治会長
委 員	山 崎 伸 二	天満町1区自治会長